

## 汐浜運河、大横川、佃堀における魚のへい死について

本日、汐浜運河、大横川、佃堀にて魚のへい死が確認されましたので、お知らせします。

### 1 発生状況

9月5日（金）午後2時頃から午後4時頃にかけて、汐浜運河、大横川の「石島橋」、佃堀の「佃小橋」で魚がへい死しているとの通報がありました。

中央区、江東区及び環境局は、現地に職員を派遣し、水質及び浮上魚の状況等の確認を行った結果、ハゼなど1000匹以上の魚のへい死を確認しました。

### 2 調査結果

環境局が本日午後4時頃に石島橋で実施した水質テストでは、シアン等毒物の検出はありませんでした。

#### 石島橋の水質分析結果（簡易分析）

- ・ 水温：28.1℃
- ・ pH：6.9（環境基準値 6.5～8.5）
- ・ 溶存酸素量（DO）：表層 1.3mg/L（環境基準値 7.5mg/L以上）  
中層 0.6mg/L  
底層 0.8mg/L
- ・ シアン及び六価クロム：不検出

溶存酸素量（DO）が全層にわたり低い値であったことから、水中の溶存酸素が不足したことが、魚のへい死の原因と考えられます。

### 3 対応

汐浜運河は港湾局、大横川は建設局がへい死した魚の回収を行います。

#### 【問い合わせ先】

○水質及び事故原因について

環境局自然環境部水環境課

直通 03-5388-3547

○へい死魚の回収について

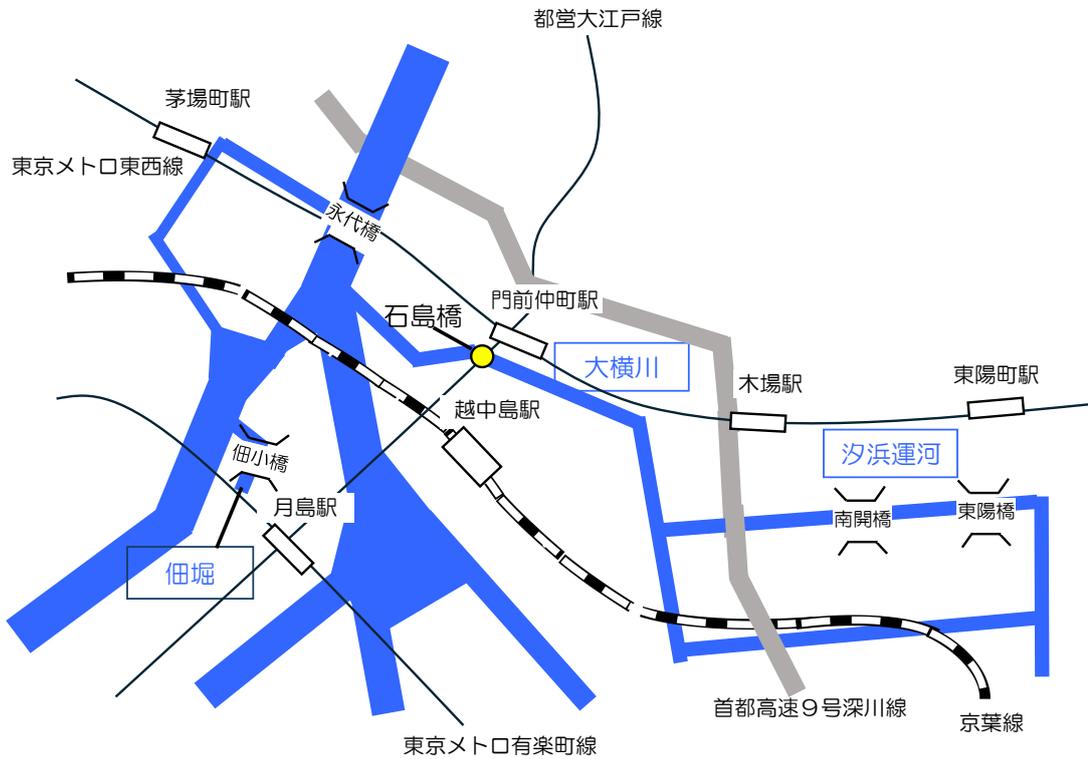
港湾局港湾経営部経営課

直通 03-5320-5552

建設局河川部防災課

直通 03-5320-5433

## 周辺図



### (参考) 測定項目について

pH：水の酸性、アルカリ性を示す指標です。0 から 14 の間の数値で表現されています。pH7 が中性、小さくなるほど酸性、大きくなるほどアルカリ性であることを表しています。通常日本の河川の pH 値は 7.0 前後です。

溶存酸素量 (DO)：水中に溶解している酸素のことです。一般に、魚介類が生存するためには、3mg/L 以上が必要であり、良好な状態を保つためには 5mg/L 以上であることが望ましいとされています。(※)

※国土交通省 河川水質調査要領 (第VI章 豊かな生態系を確保するための水質調査) より